

2005

川上ダム通信 10月号

発行者
独立行政法人水資源機構
川上ダム建設所
〒518-0294
三重県伊賀市阿保 251 番地
TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

農業体験研修に参加



キャベツの集荷作業

10月10日(月)～21日(金)、香川用水管内の香川県丸亀町綾歌町にある竹内農場のご協力により、農家滞在農業体験研修が行われました。この研修は、農作業を体験するとともに水利用や農業経営を知ることによって、ユーザーである農家について理解し、将来の業務へ活かすことを目的とし、平成17年度から機構が実施しているもので、竹内農場では新規採用職員6名が参加しました。

研修内容は、主にキャベツ全般作業（苗植え、水まき、出荷など）と牛の世話（餌やり、牛舎の清掃）を行い、農家の実態を身をもって体験しました。農家経営は大変な仕事である一方で、自然の恩恵を肌で感じられることが素晴らしいと感じました。また、香川県の水資源利用について農家の方の生の声を聞いたことは非常に参考になりました。

【総務課 武村剛泰】



牛へ餌やり

水環境学ぶ紙芝居

10月11日(火)、博愛地区市民センターにおいて紙芝居が行われ、伊賀市立府中小学校3年生が見学しました。この紙芝居は、川上ダム建設所も加入している木津川リフレッシュ事業推進協議会が子供達に自分の住む水環境を学習してもらおうと作成したもので、同小学校の体験学習の一環として行われました。今回の紙芝居は「ほたるのお祭り」というタイトルで、伊賀に棲むホタルが友達のためにきれいな水を探す中で、川の現状やきれいな川がいかに大切であることをわかりやすく解説したものでした。この後、小学生はホタルのエサとなるカワニナを見せてもらい、ホタルがカワニナを食べることを初めて知り、こうした生物が棲める水環境について学習できたようです。

【総務課 恵谷隆伸】



紙芝居に聞き入る小学生

「関西若手監督員のための安全講習会」開催

工事現場における更なる安全施工の向上に向けた講習会が若手職員を対象に9月16日(金)、川上ダム建設所で開催されました。この講習会は関西支社安全協議会が実施したもので、12名の講習生は2班に分けられ、安全衛生に関する試験が行われました。

試験問題は、安全衛生に関しての正誤を判断する「×問題」と、数枚の工事現場の写真から安全衛生上、問題と思われる箇所を指摘してもらう「写真問題」からなり、各チームとも真剣に取り組んでいました。



写真問題の解説



工事現場を見学する講習生

特に写真問題は、工事現場を講習生が実際に安全パトロールし、写真問題の箇所が現場ではどうなっているかを確認するとともに、講師を務める川上ダム建設所の西中間工事課長から、写真問題の正解と当該工事の安全衛生上のポイントを解説していただきました。

1班の班長を務めた丹生ダム建設所の松川さんからは「写真問題の解答と解説を現場で教えていただき、良く理解できた」、2班の班長の一庫ダム管理所の豊永さんからは「いろいろな知識が身に付き、良かった」ということで講習生の評判も上々でした。 【工務課兼関西支社 解良一夫】

ユーザーも参加して 「関西ブロック技術研究発表会」開催

9月15日(木)、関西ブロック技術研究発表会が大阪会館において開催され、日頃から技術研鑽に努めている成果を発表しました。

今回の技術研究発表会は機構内部だけでなく、技術交流として利水者の方々も傍聴者として参加されました。発表会では全20課題の論文が発表され、川上ダム建設所からは3課題(環境課:オオタカの調査と保全対策の事例、調査設計課:木津川上流域の降雨特性変化について、工務課:付替県道松阪青山線の地域への貢献度について 一部区間供用に伴う調査報告)について発表が行われました。発表課題のうち5課題が本社で行われる技術研究発表会に参加することになりました。

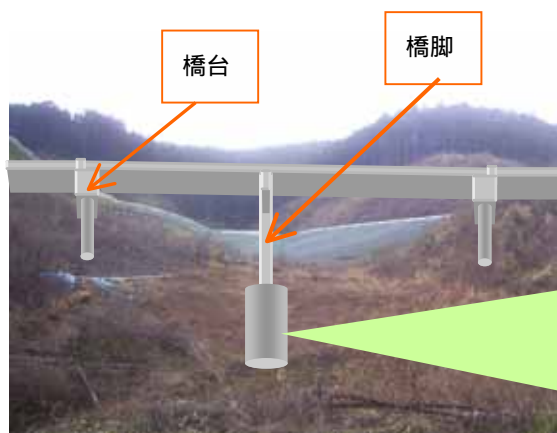


関西ブロック技術研究発表会

【調査設計課 黒木祐次】

川上ダム事業進捗状況の紹介

付替県道松青線4号橋橋脚工事



4号橋完成予想図



杭体コンクリートの打設状況

川上ダム建設所で現在工事を行っている、付替県道松青線4号橋橋脚工事についてご紹介します。付替県道松青線4号橋は、両端の橋台と中心の橋脚で支える構造であり、本工事はそのうち橋脚部を施工します。橋と橋脚の重さを支える基礎杭は深礎工法となっています。

深礎工法は場所打ち杭工法の一つで、杭周りの土が崩れないように抑えながら内部の土を掘り出した後、鉄筋を組立ててコンクリートを打ち込んで杭を築造する工法で、写真のように山の中で敷地が狭い場所や急傾斜地などでも作業ができる工法です。本工事は平成17年3月から始まって、現在基礎の施工が完了しています。完成は平成18年3月を予定しています。(写真はH17.10.14撮影)【工事課 山田英和】

新技術の紹介《表土シードバンク活用緑化工法》

のり面緑化工は、従来急速緑化による侵食防止を目的として外来草本が多く使用されてきた。最近では生物多様性保全の観点から、在地植物による緑化技術が求められるようになってきている。

日本植生株式会社が開発した表土シードバンク活用緑化工法「マザーソイル工法」は、施工地周辺の林地表土の内、埋土種子が多く含まれる表層土を土壌シードバンクとして採取し活用する遅速緑化工法である。採取する表層土には土壌菌等の微生物も含まれており、そのまま生育基材と混合して活用する。その施工手順はファーザーネット張付工・表土採取工・植生基材吹付工から成り、外来種子を含む購入種子を一切用いず、地域固有の植物のみで緑化を図る全く新しいタイプののり面緑化工法である。

【国土交通省ホームページ：新技術情報提供システム (NETIS) より参照】



伊賀地方から発信する河川環境の保全についての講習会開催

10月19日(水)、伊賀県民局主催講習会「伊賀地方から発信する河川環境の保全について」がウエル・サンピア伊賀で開催されました。講師として工学博士(社)淡水生物研究所 森下 郁子先生が「川を知る大切さ」をテーマに約1時間半にわたる講演が行われました。



講習会の様子

講演には、国土交通省木津川上流河川事務所、三重県津地方県民局、北勢県民局、伊賀県民局、伊賀市、名張市、伊賀川漁業共同組合、川上ダム建設所から約90名が参加しました。

森下先生は、「河川にはヨシが過剰に繁茂するとヨシが川の水を吸い上げていき、河川の陸地化が進み、魚類にとっての生活環境が破壊されること。多くの魚にとって河床には砂が存在することが必要あり、改修した河床には、砂を設置することが重要(天敵からの隠れ家等になるため)であること。」

等を話されました。

【環境課 村田浩一郎】

EVENT



大村神社例祭

宝殿を中心に秋祭りが行われ、特に2日の宵宮には各地区から奉納される獅子神楽が夜遅くまで舞われ、模擬店も出て賑わいます。

日時 / 11月2日(水)、3日(木)

場所 / 大村神社(伊賀市阿保)

伊賀ブランド まるごと祭り

「伊賀ブランド」の職人さん・特産品・名湯の足湯・伝統技体験などがまるごとモクモクに大集合。

日時 / 11月3日(木)、5日(土)、6日(日)

場所 / 伊賀の里モクモク手づくりファーム

赤目四十八滝の紅葉

宇陀川の支流・滝川の上流部に続く渓谷は約4kmに渡って大小様々な滝が存在。滝と紅葉の色彩を楽しむながらのハイキングが最高

見頃は11月10日頃からの予想。

編集後記

今月号では一面に、農家滞在農業体験研修の記事を掲載しました。慣れない農作業で、はじめは戸惑う場面もありましたが、実り多い研修の場を提供し受け入れて下さった農家の方々に感謝したいと思います。

また、現在行っている工事の一つである「代替県道松青線4号橋脚工事」の進捗状況を紹介しました。私たちは地域住民の皆様様に安心して頂けるよう、一つ一つの工事を着実に施工していきたいと思っています。

広報誌発行事務局

編集長	恒吉 徹(川上ダム建設所長)
デスク	上村 信幸(総務課長)
"	二林 修(工務課長)
通信記者	武村 剛泰(総務課)
"	田中 幸志(工務課)